



平成27年度
第31回福井県教育研究所
研究発表交流会

10:40 11:10	12:00	13:00	13:50 14:00	14:50 15:10	16:30
受付	研究発表①	昼食	研究発表②	研究発表③	研究発表④

日時 平成28年2月12日(金)

11:10～16:30(受付 10:40～)

会場 福井県教育研究所・青少年センター

郷 福井 新

■ 研究発表② 13:00～13:50

②ア	「美しく生きる子を育てる」学校経営	山本 眞 / 内浦小・中学校
学校経営	子どもたちがこれからの時代を生き抜くために重要となるのは、互いに尊重し合いながら生きる力や、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働する力です。人として美しく生き、信頼される人間力をつけるために内浦小・中学校で行った取り組みを発表します。	
②イ	深い学びとアクティブラーニング ～生徒と作るルーブリックの活用をとおして～	竹吉 睦 / 奥越明成高校
アクティブラーニング	教師が生徒とともにルーブリック（評価基準表）を作って目標を共有し、ルーブリックにもとづいた教師の支援や生徒の自己評価・相互評価を通して、生徒の主体性・能動性を保持しながら深い学びに繋げることを目指した実践を発表します。	
②ウ	21世紀の教育に求められる資質・能力を踏まえた授業研究の方法 ～国工・美術指導ユニットを軸とした福井県造形教育研究会の授業研究支援システム～	有岡 司郎 / 勘山高校
美術	福井県で一体となった組織支援体制が、実際に授業力向上支援につながるように、「指導ユニット」ユニットボックスユニット項目表」という具体的な手立てをもち取り組んでいる研究や、坂井地区、奥越地区での校種間連携の授業研究の取り組みを中心に発表します。	
②エ	学校教育の中での新たなNIEの実践の在り方 ～平成27年度教員指導力向上奨励事業の取り組みより～	中谷 幸子 / 豊(福井)小学校
NIE	平成25・26年度の研究の成果を踏まえ、学校教育の中でNIEに取り組むことで生まれる新しい学びのスタイルについて考えることができました。これまでの授業実践や、研修会等での発表を振り返って見えてきた成果と課題について発表し、新たなNIEの取り組みについて考察します。	
②オ	グローバル人材の育成を目指した探究型学習の指導	山内 悟 / 高志高校
総合的な学習	(1) 高志高校SGHについて (2) 「グローバル探究」(総合的な学習の時間)における取組について (3) 各教科における取組について (4) 評価について	
②カ	自然やエネルギーの観点からとらえた発展的な環境教育 ～小中で連携して取り組むキャリア教育の推進～	呉林 寛隆 / 三方中学校
総合的な学習	三方中学校では、福井県教育委員会の事業である「教員指導力向上奨励事業」を行って3年が経ちます。1年目と2年目は環境教育、3年目はキャリア教育。教職員と専門家とのつながりを深めながら積み上げた知識や経験をもちに、3年間の取り組みを発表します。	
②キ	数学科のアクティブラーニング	前田 瑛士 / 若狭高校
数学	今年度、若狭高校の数学科では、若手教員を中心にアクティブラーニングを取り入れた実践を行っています。各自の実践は、教員会で情報を共有し、各自の改善に努めてきました。実践例を紹介し、その中でみえてきた本校数学科としての課題、共通認識となってきたことを発表します。	
②ク	健康に生きる力を身につけるための食育教材「食育チャレンジ」を 効果的に使った授業実践	堀江 久美恵 / 足羽第一中学校
学校給食	子どもたちがより健全な食生活を実践することは、情緒の安定や調和のとれた発達につながり、学力や体力の向上、生きる力の育成になります。日ごろの児童生徒の様子からみえる課題をふまえ、福井県学校栄養士研究会で作成した食育教材「食育チャレンジ」を使って実践した、食に関する指導実践事例を発表します。	

■ 研究発表① 11:10～12:00

①ア	世界史Bの授業における生徒の思考を促す「問い」の研究	山田 繁 / 若狭高校
世界史	世界史Bの授業において、生徒の思考を促すための問いの設定に関する研究をしてみました。設定した問いを紹介し、研究の中で見えてきた課題（問いの設定基準や、世界史Bで必要な資質・能力に対する授業者の理解など）について考察したことを発表します。	
①イ	SSHや総合的な学習における課題研究の評価とほいか あるべきか	小坂 康之 / 若狭高校
課題研究	若狭高校で実施されている「課題研究」における評価（評価規準・方法の設定、評価の実施、外部評価の実施）の研究について紹介します。	
①ウ	個の学びと協働の学びのつながり ～中1 正負の数の実践を題材として～	柳本 一休 / 福井大学附属中学校
数学	附属中学校では、協働探究による学びを中心とした授業を行っています。協働の学びの中で表現される個の考えを、どのようにつないでいくのかが教師の課題。通級指導を要した生徒との授業体験や過去の実践をふまえ、自身の考察を加えながら、個の学びと協働の学びのつながりについて発表します。	
①エ	難関資格（技能士）の合格者を増加させるための教材開発	高須 一郎 / 敦賀工業高校
工業	福井県全体の工業教員の指導力向上の合格者を指導してきた教員が集まり、「DVD版合格マニュアル」を作成しました。福井県全体の工業教員の指導力向上や、工業高校生のレベル向上のために行ったこれらの教材開発について発表します。	
①オ	高校数学における授業の変革について ～主体的な学びを生む授業の浸透と深化を目指して～	真鍋 清希 / 教育研究所
数学	「数学ユニット」では予習課題を前提とした授業、グループ活動を取り入れた授業、ICTを活用した授業といった高校数学の授業改善について取り組んできました。その取り組みについて発表します。	
①カ	到達目標達成のためのCAN-DOリスト活用法 ～目標と指導と評価の一体化～	吉村 美幸 / 教育研究所
英語	英語を伝える日本人育成のために、また、小・中・高一貫した指導の実現のために、各学校が参照枠として利用できる「福井県英語学習CAN-DOリスト」を作成しました。CAN-DOリストの観点から到達目標を設定する方法と、その到達目標を指導と評価に活かすための方法を提案します。	
①キ	学力調査による学習指導改善サイクルについて	三谷 和範 / 教育研究所
学力調査	福井県では、全国学力・学習状況調査とSASA(福井県学力調査)を一括して分析・管理することでその成果を現場に還元して授業改善を進め、児童生徒のさらなる学力向上を目指します。その取り組みについて発表します。	
①ク	学級への適応感と学力の関連	荒木 直則 / 教育研究所
教育相談	「良好な学級集団では、学習の定着率が高い」という先行研究をうけ、福井県の小中学生も同様の状態なのか、分布ごとの集団の学力がどのような状態にあるのかを割り、関連を分析することにより学力の向上に寄与する学級経営のあり方についての研究に取り組みました。その研究結果について発表します。	

ポスターセッション 14:00～14:50

「美しく生きる子を育てる」学校経営	山本 眞 / 内藤 J・中子校
武生高校における若手教員育成 ～ 8 名 (BURA) 学カ向上グループ) について～	久島 裕 / 佐生 豊哉
県外派遣教員からみた福井らしさ	東島 代次郎 / 其生高小 / 宇城
数学科のアクティブラーニング	前田 瑛士 / 石炭高校
世界史 B の授業における生徒の思考を促す「問い」の研究	山田 繁 / 石炭高校
SSH や総合的な学習における課題研究の評価と「問い」にあるべきか	小坂 康之 / 若狭高校
アクティヴ・ラーニングを取り入れた授業実践	佐飛 なつき / 丹南高校
高次の「読みの能力」を育む指導と評価のあり方	速澤 久暢 / 若狭高校
自身感情を高める学習指導を考える	内藤 祥子 / 石炭高校
学びをつなぐ希望の「トングプロジェクト」～ 「読む力」を伸ばす「書く力」～	舘 寿子 / 熊野教育館
研修の歴史	吉川 慧代江 / 熊野研究所
教育相談部のあゆみ	塚田 孝子 / 熊野研究所
望ましい学習集団育成についての研究	酒井 範子 / 熊野研究所
高校数学における授業の変革について ～ 教材の学びをその授業の現場で実践し振り返る ～	美鶴 清希 / 熊野研究所
小・中・高に縦糸を通す英語指導	川崎 美和・富田 秀明 / 熊野研究所
到達目標達成のためのCAN-DOリスト活用法 ～ 目標と授業と評価の一体化 ～	古村 美幸 / 熊野研究所
「平成 27 年度全国学力・学習状況調査」の分析と分析方法の研究	三谷 和範 / 熊野研究所
総合的な学力を育む学力調査の研究開発	黒川 一 / 熊野研究所
「福井県学力調査 (SASAJ)」のあゆみ	河合 正孝 / 熊野研究所
シンポジウム 15:10～16:30	

『今、教員は何をすべきか』

～これからの時代の学力と教員の力量形成について考える～
 これから求められる学力や教員の資質・能力を明らかにし、これからの授業づくりや学校づくり、教員の力量形成のために、我々教員は何をすべきか、考えていきたいと思います。

シンポジスト	日蓮 円 氏 (兵庫教育大学先端研究推進機構教授)
	石井 英典 氏 (京都大学大学院教育学研究科准教授)
	柳澤 昌一 氏 (福井大学大学院教育学研究科教授)
コーディネーター	牧田 秀昭 (福井県教育研究所調査研究部長)